

群馬つつじ会だより



第28号

発行 平成29年3月31日
群馬県精神障害者家族会連合会
(群馬つつじ会)
〒371-0843
群馬県前橋市新前橋町13-12
群馬県社会福祉総合センター7F
TEL 027-289-9647
FAX 027-289-9648
E-mail gunmatutuji_k@ybb.ne.jp

この1年間を振り返り、次へのステップ

会長 吉邑 玲子



精神保健福祉全国大会にて 於：群馬音楽センター

平成28年度を振り返りますと、30周年の総会、関東ブロック大会の当番県と大きな節目でした。大会に際しての会員へのアンケート結果が今後の活動にも生きています。新役員一同、心を合せて取り組んだ一年でした。

みんなねっとの動きの中で、JR運賃半額の署名活動は、全国で約62万筆を集めました。実現には届きませんでした。このような活動を通して分かるのは、他の障害と比べ同等の処遇が遅れていることです。

併せて、群馬つつじ会の県連としての行政への要望書の検討も課題になっております。

他の活動では、30周年誌の発刊は会の足跡を残し、ホームページを開設して情報発信の場を広げました。特に、会の活動、障害への理解を深めるため、賛助会員の募集を始め、29団体と個人の方々10名の賛同も得、今後も更なる賛同者を求めています。

看護学校へは、「精神障害についての理解」～家族として伝えたいこと～と題して講話を行い、7校約500人の学生対象に行い好評を得ました。来年度は、地域への理解のため、民生委員対象にも講話を予定しています。

家族の家族による相談は研修を行い、一般向けにも少しずつ広げる予定です。

奇しくも、今年度は全国精神保健福祉協会の全国大会におきまして、表彰を受けるという栄誉に遭遇しました。この30年の先人の方々の熱心なご努力のお陰と、自らの活動に身が引き締まる思いでおります。

会員の皆様の単会の活動を核に、より充実した活動を目指したいと、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

群馬県精神障害者家族会連合会(群馬つつじ会)30周年記念誌完成!!

群馬つつじ会は、創立30周年を迎え、記念誌を発行できた事を、大変うれしく思います。

発行にあたり、群馬県知事及び関係機関の代表の方々からの多数の祝辞、森下元会長や櫻井顧問からの心温まる所感をいただきました。そして、「県連30年の歩み」では、精神保健福祉の歴史と社会の動きを知る事により、これからの活動の参考となる内容となったと思います。また、地域家族会の紹介では、単会の概要を一目でわかりやすくまとめてあります。

短時間にもかかわらず、心のこもった祝辞等の原稿をお寄せいただいた皆様、貴重な資料をご提供いただいた皆様には、深謝の意を表わせていただきたいと思います。

30年の節目としての記念誌ではありますが、記念誌の中の吉邑会長の挨拶にもあるように、後に続く方々に残せるものの1つになってもらえたらと、心より願っています。

(編集委員一同)

群馬県精神障害者家族会連合会
(群馬つつじ会)

結成30周年 記念誌



赤城山 初夏の覚醒湖

平成29年(2017)3月

30周年記念誌表紙

第64回 精神保健福祉全国大会 (平成28年10月13日 群馬音楽センター)

10月13日(木)第64回精神保健福祉全国大会が高崎音楽センターにて行われました。実行委員会会長は群馬県精神保健福祉協会会長の福田正人先生でした。群馬県こころの健康センター所長の浅見先生、群馬つつじ会の吉邑会長が委員に入っております。

午前の記念式典では表彰が行われ群馬つつじ会も表彰されました。また、櫻井前会長、大澤前副会長、前橋あざみ会も表彰されました。

引き続き、アトラクションとして、しろがね学園の「ダンス」、NPO法人アパリ藤岡ダルクの「太鼓演奏」が行われました。

午後「身近にある<できること>」と題してNPO法人フリー・

ザ・チルドレン・ジャパンの石田由香里さんの記念講演が行われました。石田さんは1989年生まれ。1歳3ヶ月で病気で全盲となりました。国際基督教大学卒業。卒業後フィリピン障害者支援事業プロジェクトマネージャーとして活動しておられます。岩波ジュニア新書より「<できること>の見つけ方ー全盲女子大生が手に入れた大切なもの」という本も出されています。

そして福田先生を座長として「誰にでもできることがある社会の実現に向けて」と題してシンポジウムが行われました。シンポジストは大島主好さん(群馬県がん患者団体連絡協議会会長)、安田淑美さん(群馬大学健康支援総合センターカウンセラー)、山本大さん(NPO法人アパリ藤岡ダルクディレクター)の方々でした。

貴重なお話、いろいろありがとうございました。



開会式の様子



表彰を受ける大澤前副会長



表彰を受けた方々

平成28年度 群馬県委託事業 群馬つつじ会研修会 平成29年1月27日

「困っている人に手を差し伸べられる家族会」

講師：うたのまち心理研究所 うたのまちカウンセリング 所長 落合美貴子 先生

今年も群馬つつじ会研修会が群馬県社会福祉総合センターにて行われました。研修内容は「家族相談に向けて面接技術を身に付けるための講演とロールプレー」でした。午前は講演「支援のための面接技術」が行われ午後は「面接技術のロールプレー」として実技が行われました。

午前の講演では、Ⅰ 最近のメンタルヘルス状況、Ⅱ 人の心の捉え方、Ⅲ 面接の仕方のお話がありました。基本的態度として傾聴が重要で、相手の気持ちを理解することの必要性が強調されました。

午後はロールプレーの実践指導が行われました。ロールプレーは初めての方も多く、難しいと言いながらも何事も経験ということで、一生懸命、また、和気あいあいと取り組んでいました。



お話をしている落合先生

研修会アンケート結果

<講演会の感想> 良かった19 普通2 難しかった1

- ・各項目ごとに説明があったのでとても良かった
- ・ドクターにすべて頼っていたが家族にできる事、むずかしい事ではないので実行しよう!
- ・昔の20才=今の35才は育てた親の責任になるのでしょうか

<ロールプレーの感想> 良かった13 普通1 難しかった8

- ・実践研修会も一年に1回はしてもらいたいし、わかり易い
- ・話を聞く事の大切さ、それに答える方法全てに道すじがついて良かった
- ・ロールプレーの実践のむずかしさ、楽しさが判った様な気がする

☆参加者の感想☆

厳しい寒さ、春の訪れが待たれる頃、平成29年1月27日前橋社会福祉総合センターで家族会研修に参加、勉強できました。発達障害、うつ。病理。遺伝。言葉。声。行動。主訴。生育史の理解。文脈の理解。面接の目標と留意点。信頼関係。つながり要素。進め方をきめる。傾聴。困っている人に手を差し伸べられる家族会として、相談する側の話を聞いて、同じ症状や状況を抱えて悩んだり苦労をしている話を受けとる側での質問の仕方が難しいと思いました。ロールプレーでの体験で、家族や当事者との対話の中でも役立てたい事がありました。信頼関係。話を受け止める。傾聴（事のあらまし、気持ちを理解する）。表情。ミラー体験（相手の気持ちを理解する）。話手。聞手。伝えて要約観察と勉強になりました。焼酎風呂（キャップ一杯の焼酎を入れるだけの温泉）三日ごとにシーツ類を取り替えることも実行することにしました。これからも怠る事なく、研修に参加、当事者と共に前向きで精一杯生きていこうと思います。ありがとうございます。（プラムの会 公平）



ロールプレー体験 ～表情を読み取る～

拡大理事会 初開催！



会場風景

今年度12月の理事会を拡大理事会とし、県との交流会を12月13日前橋市総合福祉会館にて行いました。

群馬県障害政策課精神保健室の津田室長、橋本係長をお呼びし、津田室長から「バリアフリーぐま障害者プラン6」について報告がありました。精神のグループホームは増えているが、地域状況に切れ切れていない部分もあり、地元に入所できない場合も見受けられるということでした。（平成26年度93カ所740人定員、27年度101カ所821人定員）

続いて小川理事より障害者の就業（支援）状況について発表がありました。内容は精神の就労者が年々増加している。身体と精神などの障害が重複している場合があるが、精神以外での手帳の届出をしている場合があるなどでした。

その後会員から以下の意見が出ました。

- ・群馬県下でも福祉サービスの不平等がある。県が指導してやってほしい。引っ越すわけにもいかない。
 - ・福祉の制度の進化は肌で感じていてありがたく感じる。
 - ・親が元気なうちに子どもが自立するシステム（仕組み）のスムーズなバトンタッチが重要だと思う。
 - ・社会保障費が増大している中で、医療と福祉と親の支援の合理化が必要。
 - ・親が健康なうちに、地域移行支援を前倒しで適用して欲しい。
- 等意見交換が行われました。十分な時間も取れませんでした。今後につなげたいと思います。

～津田室長から家族会へメッセージ～

群馬県健康福祉部障害政策課精神保健室 室長 津田早百合

家族会の皆様方には、日頃から家族として精神障害のある方を支え、精神保健福祉の向上に御尽力をいただいております。感謝申し上げます。

家族会は、互いの悩みを分かち合い、家族同士の交流を通してお互いに支え合い、様々な活動を行ってまいります。

保健師として保健所やこころの健康センターで精神障害者本人や家族の方からの相談に対して寄り添いながら支援して参りました。その方々が、家族会に繋がり、看護学生等へ自らの体験談を語られるなど、いきいきと社会へ向けての活動を行っていることを知り感嘆しております。

県では障害のある方が住み慣れた地域で、必要な医療や福祉サービスを受け、生きがいを持ち、安心して暮らせるよう、今後も各種施策を充実していきたいと考えておりますので、引き続き家族会の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



津田室長

「みんなねっと全国大会 IN 三重」に参加して

三重県津駅を降り立ち、バスの送迎で会場に案内され、スタッフがあちこち立たれていて助かりました。

基調講演は、『みんなねっと』にも連載されていた大野裕先生の認知行動療法についてで、精神疾患に限らず、日常にも役に立つ分かりやすいお話でした。

また、行政報告の厚労省の発表。記念講演「精神科のアウトリーチ」では、千葉から多職種のアウトリーチのモデルとなるような報告がありました。

分科会「元気な家族会に！」では、大阪の病院への家族相談の実施、静岡県の記事者を持たない家族の協力を取り込んだの活発な活動、奈良県の地道な制度改正への動きと刺激を受けました。

(会長 吉邑玲子)

◎ 家族会紹介 ◎



たけのこ会の皆さん

館林邑楽精神障がい者家族会（たけのこ会）

当会は平成2年に当時の館林保健所の後押しにより12名の発起人により誕生いたしました。

発足当時は右も左も解らず、正に右往左往の状態で大変苦勞いたしましたお話を当時の関係者からお伺いいたしております。その後一致団結のもとに地道な努力をされ現在正会員60名賛助会員11名合計71名に至りました。

設立当時からの基調「支え合う」「学び合う」「自助努力」「地域への働き掛け」を旗印のもと「元気・陽気・本気・勇気」をモットーに「話し合い」「研修会」「レクリエーション」等高齢化を迎え親亡き後も見据えて活動いたしております。当会の特徴は行政とすこぶる歯車が合い共催の講演会・研修会の開催、また、NPO法人若草会・若草作業所とのレクリエーションや旅行の提携、それに精神保健福祉ボランティア団体「陽だまり(会員45名)」の土曜サロンと交流会を通しての社会参加を展開致しております。

今後は自立に向けた支援の展開が課題です。

(会長 大塚武於)

賛助会員を募集しています

群馬県精神障害者家族会連合会では、この会の活動にご賛同いただける一般の方、及び関係機関の方などへ、賛助会員としての入会を呼び掛けています。ぜひ当会の活動をご理解いただき、たくさんの方がご協力くださいますようお願いいたします。

なお、お問い合わせは群馬つつじ会事務局までお願いします。

活動内容はホームページをご覧ください。

(<https://gunmatutuji-kai.jimdo.com>)

賛助会費一口2,000円

群馬県委託事業「家族相談会」について

相談会は、年2回県内各地で持ち回りで行っています。今年度は中之条と伊勢崎の2か所で行いました。今年度から予約制も導入し、相談がスムーズになりました。

来所者は地元が少なかったり、必ずしも多いとは言えませんが、面会時間が1時間近くで、医師、精神保健福祉士、保健師の専門家に相談するチャンスがあります。待ち時間等には、地元家族会員が対応しています。

来所者が満足そうに帰られるのを見るのは、大変嬉しいことで、家族会の存在を知って頂いています。但し、入会者がほとんどいないのが課題です。

<平成28年度年間事業報告>

28年5月13日	第30回総会・記念講演
5月26日・27日	全福連(みんなねっと)総会
9月13日	みんなねっと関東ブロック大会 in 群馬～みんなが元気になれる 家族活動～
9月23日	県への要望書提出
10月27日・28日	全福連(みんなねっと) 全国大会(三重)
11月17日	家族相談会(吾妻)
29年1月27日	研修会「困っている人に手を差し 伸べられる家族会」
2月23日	家族相談会(伊勢崎)

——— <編集後記> ———

今年度は2回群馬つつじ会だよりを発行いたしました。いががだったのでしょ。うか。

今回30周年記念誌の発行等盛りだくさんでした。研修内容・感想等載せきれませんでした。いろいろとご協力ありがとうございました。来年度もどうぞよろしく願いいたします。(岡部)